

一部教科担任制

本校では、3・4年の図画工作や理科、5・6年の社会や理科等の学習を教務の教員が各学級に入って授業を行ってきた。また、外国語では専科の教員が配属されており、すべてのクラスの授業を行っている。これらの元の体制に加えて、昨年度は3・4・5年において学級担任同士が教科の交換授業、いわゆる一部教科担任制を行ってきた。

1. 実践の概要

今年度は、4・5・6年において一部教科担任制を行った。昨年度の実践を参考にして、学年の実態に応じて、年度初めの時間割決定の際に交換授業の方法や組み合わせを検討し、実践してきた。

また、3年生は教科の交換ではなく、道徳の授業での教材分担を実施した。

3年生 4クラス

○道徳→担任4人が一つずつの教材を担当して教材研究・授業準備を行い、4週間かけて担任がクラスをローテーションして4クラスの授業を行った。

- ・外国語1（専科）
- ・図工2（教務）

4年生 4クラス

○1組⇔3組 書写をクラス交換して授業

2組⇔4組 図工と音楽の交換授業 書写をクラス交換して授業

- ・外国語1（専科）
- ・理科3（教務）

5年生 4クラス

○1組⇔2組 音楽+図工 と 社会 での交換授業 を計画

○3組⇔4組 音楽+図工 と 社会 での交換授業 を計画

今年度、感染症対策のため音楽の授業が予定通り実施できない状況だったため、今後実施予定

- ・外国語2（専科）
- ・理科3（教務）

6年生 3クラス

○1組⇔2組 理科 と 家庭科+国語（1）

○1組⇔3組 理科 と 音楽+書写

○2組⇔3組 書写をクラス交換して授業

- ・外国語2（専科）
- ・社会3（教務）
- ・図工2（教務）

2. 成果と課題

(1) 成果（職員アンケートより）

- ・ 転任したばかりの教員や新しく学年に入った教員は、学年の子どもたちの名前や顔が分かったり、他の学級の雰囲気を知ったりすることができ、学年の教員が共通理解をもって指導をすることができる。
- ・ 同じ授業を複数回行うことができるので、反省をもとに授業改善をすることができた。特に若手教員にとっては指導力向上につながるのではないかと感じた。
- ・ 教材研究に費やす時間が減り、他の必要なことへ時間を効率的に使えた。
- ・ 各クラスの授業進度の足並みを揃えることができた。
- ・ 実技系の教科で指導が苦手なものを、得意な教員にやってもらい、とてもありがたかった。
- ・ 業務が全体的に楽になったように感じた。

(2) 課題（職員アンケートより）

- ・ 学年3～5クラスあるので、全クラスをまたいでの一部教科担任制は授業を組むことが難しい。
- ・ 交換する教科のバランスが取りづらかった。
- ・ 教員が入れ替わっている場合があり、急な時間割の変更が難しい。

3. 考察

一部教科担任制は教員の専門分野や得意な分野を生かせること、また、授業改善を行えることから、児童の学びの質を向上させるための一つの手立てとして、有効であるのではないかと考えられる。さらに、教員の業務改善という側面からも期待ができ、担当する教科が減ることから、教材研究に費やされる時間も減少し、働き方改革へつながっていくのではないかと考察できる。

また、学年の児童数が多い本校において、他のクラスで授業を行うことで他クラスの児童とも関わりをもつことができ、学年での生徒指導にも有効だと考える。

本校のような大規模校の場合、年度当初にあらかじめ一部教科担任制を行うことを念頭に置いて、時間割を組んでいく必要がある。学年全クラスではなく、1・2組、3・4組のように学年を分けて一部教科担任制を行うことによって、実施の可能性が広がっていくのではないかと考えられる。